

令和5年度 学校教育目標

「自主・自立・自律～自ら未来を語る生徒を育てる～」

4部連携図

研修部：「わからない」から始まる授業の創造

4つの視点を大事にして、授業研究を行っている

- ① 外部講師による授業研究及び模擬授業
- ② 前・後期 授業作り研修
- ③ 学級（学年）経営研修
- ④ 学力分析

安心感のある学校生活・仲間関係

すべての土台

生指部：誰もが安心して
過ごせる空間の創造

生活部：個の力のアップで
より良い集団作りへ

学習部：①たくましく、豊かな人間性を持って、未来を生き抜く力の育成
②D層10%以下につながるテスト分析・帯学習・テスト計画表の作成

①年間生徒指導重点項目による生徒指導

②交通安全指導の徹底

③一中版 ネットルール宣言の発信

④「報・連・相」の徹底

⑤QU アンケート結果の活用

①自分の思いを人前で語る生徒の育成

・生活部主体の学級経営研修

②リーダー・フォロワーの育成

・朝/帰りの会での取り組み

・HR シュミレーションの実施

・班長会による取り組み

③生徒会活動の充実

・生徒会執行部

・代議員会（委員会）

・室長会 による行事等の企画・運営

①人権教育の推進

・系統性のある人権学習

・こどもの権利条例学習会

・人権フォーラム の企画・運営

②未来に希望を抱けるキャリア教育

・3年間を見据えた進路学習

・家庭学習（マイスタ・新研究）

・帯学習（朝読・コグトレ・小テスト）

・系統性のあるテスト計画表

③「考え・議論する」道徳の探究

・35時間22項目の実施

①D層追跡分析

②定期テスト分析（評定配分表作成）

③学調・IRT分析

④デジタル採点・成績処理（学習のあゆみの作成を含む）

⑤ギガスクール構想の推進



東員第一中学校
511-0242
三重県員弁郡東員町
六把野新田557番地
Tel 0594-76-2303
Fax 0594-76-9711
E-mail toin1-jimu@mie-toin.ed.jp

学校長：島田真也
職員数：44人
児童数：436人
学級数：16学級



「わからない」から始まる授業の創造

～教科の本質に迫りながら、他者との関りでしか得られない学びを目指す～

授業研究において6つの視点を大事にします

①安心して過ごせる教室空間の構築

□以下の掲示物を生徒達に示し、**授業規律**を確立していくことで、授業が誰にとっても安心して受けられるものにしていきます

東員第一中学校 授業規律9項目		東員第一中学校 学びの作法	
①チャイムがなる3分前に授業の準備をして着席する。	②授業の始めと終わりのあいさつを姿勢を正して、きちんと行う。	③正しい姿勢で座る。(足を組んだりせず、背筋を伸ばして座る)	④わからないときは「自分から」友達に聞こう。(待たない) 「わからないから教えて!」「それ、どうやるの?」「これどういう意味?」「まだわからないから、もう1回教えて!」
④はっきりと返事をし、みんなに聞こえる声で話す。	⑤話す人を見ながら最後まで話を聞く。	⑥無駄話や手遊びなど、授業に関係のないことをしない。	⑤きかれたら相手が納得するまで説明しよう 相手の考えに寄り添って、相手が納得できるように説明する。「～さんは、どこでつまづいているのかな?」と考える。「ここまで分かった?」と聞いてみる。 絵や図をかきながら(示しながら)説明する。
⑦授業に必要なものは机の上に乗らない。	⑧授業中に勝手に自分の席から離れない。	⑨自分の言動は周りをハッピーにしているか常に考える。	⑥自分の考えと比べながら、優しい気持ちで相手の考えを聴こう。 (自分の考えとどこが違うのかな?どこでそう思ったのかな?～さんが言いたいことは、つまり～ということなんだな。)

②生徒が思わず考えたくなる、他者の考えが必要となる課題の提示

□授業の初めに必ず「**めあて(今日の目指す姿)**」を示し、授業内で基礎学力を高める「**共通の課題**」、学んだことの応用・発展を図る「**ジャンプの課題**」を生徒に提示する。

③小集団を生かした協同的な学び

□他者との関わりでしか得られない学びを実現するために、教科の本質に即して、**意図のある小集団を活用した協同的な学び**を行う。(最初はA層⇒D層、理想はD層⇒A層)

④生徒が思考したり、考えを書いたり、交流する時間を十分に保障す

□授業の中では不必要な内容を削ぎ落とし、教師は喋り過ぎない。教師は生徒の「わからない」から出発点として、つなぎ役となって、見取る。「**生徒:教師=8:2**」を理想とする。

3つの姿を目指します

- ①「わからない」と言える授業、安心してできる空間を作る教師
- ②生徒の「わからない」をつなぎ、適切に見取ることができる教師
- ③「わからない」と身乗り出して質問する生徒

⑤高い専門的知識と教材作成能力、説明力を備えた教師

□生徒が「わかった!」と納得できるような説明力、生徒の**探求心**をくすぐる教材の作成、子ども達の疑問に即座に答えられる**専門的知識**を備えた教師を目指します。

⑥読解力の育成

□上記のリーディングスキル表を元に教科別部会を活用して、教科の特性に応じたスキルの育成方法の開発に取り組みます。

4つの手立てで授業研究を進めます

①外部講師による授業研及び模擬授業

□岐阜聖徳学園大学、玉置教授に**年間3回**、来ていただき授業研究を行う。研究授業については以下の視点で見ると

- ①設定された課題に対する子どもの姿
- ②教師の生徒をつなぐ姿や見取りの姿

□研究授業前には**模擬授業**を実施し、研究授業のねらいなどについて共通認識を図る。(授業者のニーズに合った**模擬授業**を行う。)

②前・後期 授業作り研修

□全職員が目標やテーマを持って、**1年間に2回、2週間程度**の期間で公開授業を行う。また、公開期間中は以下の手立てを講じる。

- ①参加シートを使って、授業を参観する。
- ②星取表を使って、参観状況を可視化する。
- ③授業作り研修の始めと終わりに必ず**取り組みの方向性の確認**や**振り返り**を交流する時間を設ける。

③学級(学年)経営研修

□**1年間に3回**、学期の始めに学級(学年)の状況を振り返り、学級(学年)経営の成果と課題を明らかにする。

④学力分析

□定期テストとIRTテストの相関関係を分析し、生徒の学力状況を全職員で交流・共有する。その中で、**D層10%未満**を目指す。(分析については学習部が担当する)

- 4月: 入学式
生徒会利エテ-ツヨ
学調・IRT・ｽﾀﾃﾞｨｴｯｸ
授業参観
評議員会
スポーツテスト
- 5月: 修学旅行〔3年〕
キャリア学習〔2年〕
弁当の日〔1年〕
中間テスト
QU調査①
- 6月: 都市体育大会
小中連絡会
実力テスト①
生徒会授業づくり
- 7月: 期末テスト
部活壮行会
桑員体育大会
- 8月: 夏休み研修会
補充学習会
- 9月: 実力テスト②
体育祭QU調査②
- 10月: 桑員新人体育大会
実力テスト③
授業参観中間テスト
3年文化行事
評議員会
- 11月: 実力テスト④
人権フォーラム
校内人権学習期間
期末テスト
保育実習〔2年〕
- 12月: 三者懇談会
- 1月: 実力テスト⑤
QU調査③
入学説明会
- 2月: 実力テスト⑥
3年三者懇談会
合唱祭三送会
期末テスト
公立前期選抜試験
- 3月: 評議員・評価委員会
卒業式
公立後期選抜試験